

相場下落時の投資行動調査

2024年の始まりとともに、新NISAがスタートしました。しかし、同年8月には金融市場は大幅な変動があり、新NISA等をきっかけに資産運用を始めたばかりの投資家の皆さまにとって心理的な動揺は大きかったのではないかと思います。

この度、弊社では、弊社直販サービス「mattoco+(マッコプラス)」および業界の設定・解約計数等を用いて、金融市場の大幅な変動に直面して投資家の皆さまがどのような投資行動をとられたかを調査いたしました。

今回の調査が、長期投資実践のさらなる広がりの一助となれば幸いに存じます。

本調査における主な分析結果

- ✓ 業界において、相場下落により日次解約額は一時的に急上昇し、ネット証券の積立投信買付額は相場下落のあった年央からは横ばいで推移
- ✓ 「mattoco+」のお客さまにおいては、相場下落を受け積立額を減額させた方が増額させた方よりも多く、減額した方の多くは相場下落以前に積立額を増額していた方によるもの
- ✓ 相場下落時の投資行動別リターンのシミュレーション結果を見ると、相場下落時に積立停止・解約した場合が、収益額・収益率ともに最も低い結果
- ✓ eMAXIS LINEにご登録いただいている方の相場下落時の行動は、「特に何もしなかった」方が約75%と一番多い結果

相場下落により、不安等になり解約や積立ての停止・減額をされた方が一定数存在し、長期投資の実践を阻む要因になったと考えられる。

自身のリスク許容度や資産の状況にあった適切な投資額で行うことが、結果として長続きすることの秘訣になり、「長期的には基準価額は上昇する」と信じるのであれば、相場下落には一喜一憂せず「継続」することがよいと考えられます。

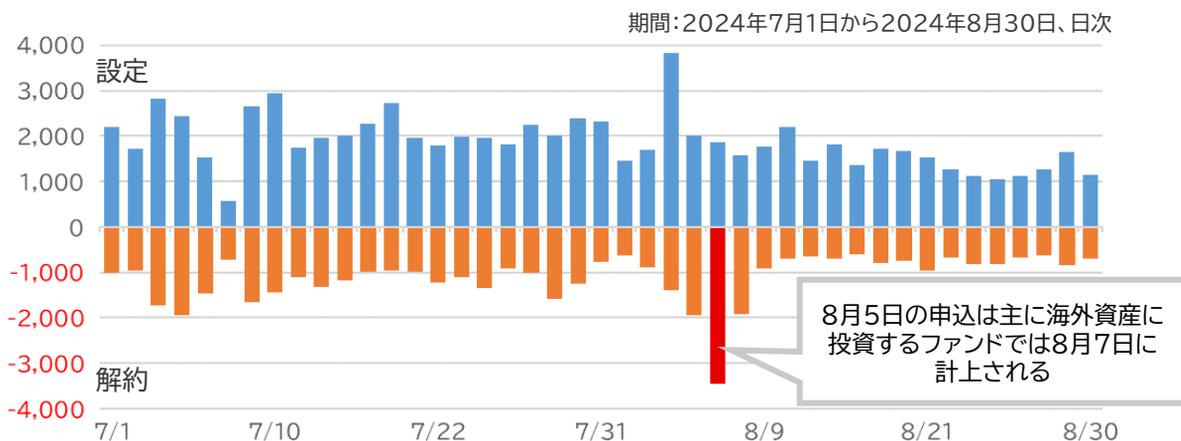
■ 相場下落時の業界動向

- ✓ 相場下落時に解約額は一時的に急上昇
- ✓ 積立投信買付額は相場下落のあった年央からは横ばいで推移

短期的な影響としては、業界(追加型公募株投(除くETF))において、8/5の相場下落を受け、一時的に解約(売却)額が急上昇しました。大幅な下落をみて、不安等になり解約をされた方が一定数存在したものと推察されます。ただし、解約(売却)額の上昇は一時的なもので、その後はすぐに平常時と同水準に落ち着きました。

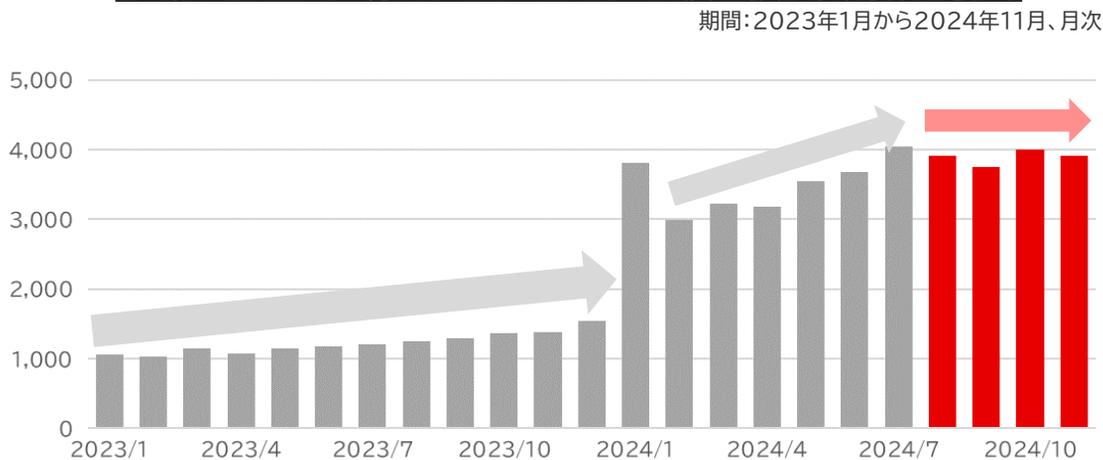
積立への影響としては、ネット証券5社におけるNISA口座の積立投信買付額は、年初一括買いが多いと思われる2024年1月を除き、増加傾向が続いておりましたが、相場下落があった8月以降、横ばいとなっています。上記と同様に不安等になり、「つみたて」の停止や減額をされた方が一定数存在したものと推察され、金融市場の大きな動揺が水を差したとみることが出来ます。

【図表1】業界における設定・解約の日次推移(億円)



出所: Fundmarkのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成。
(注)業界(追加型公募株投(除くETF))については、2024年7月末に存在しているファンドを対象に集計。

【図表2】ネット証券5社 NISA口座の積立投信買付額(億円)



出所: QUICK Workstation 「ネット証券 月次 NISA口座稼働状況(SK@NIS)」を基に三菱UFJアセットマネジメント作成
※ネット証券はSBI証券、楽天証券、マネックス証券、三菱UFJ eスマート証券、松井証券の5社。
※上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

■ 「mattoco+」のお客さまの積立額の変化

- ✓ 相場下落を受け、積立額を減額させた方が増額させた方よりも多い
- ✓ 減額した方の多くは、相場下落以前に積立額を増額していた方

積立額を減額した方の特徴を調べるために弊社直販サービス「mattoco+(マッコプラス)」のお客さまを対象に分析いたしました。

まず、2023年12月と2024年8月の積立額を比較すると、増額させた方が一番多い結果となりました(①)。これは新NISAが始まり年間非課税投資枠が拡大されたことにあわせて、増額された方が多かったと推察されます。

一方で、相場下落を受けた後の2024年8月と9月を比較すると、変化なしの方が大勢を占めるものの(②)、減額された方が増額した方を上回る結果となりました(③)。その減額された方のうち、ほとんどがその前に増額を行った方でした(④)。

新NISAにあわせて増額したものの、相場下落を受け、強く不安に感じたり、リスクの取りすぎに気づいたりして今一度見直し、積立額を減額された方がいらっしゃるのではないかと推測されます。一方で、資産運用は長期投資が重要であり、ご自身のリスク許容度や資産の状況にあった適切な投資額で行うことが、結果として長続きすることの秘訣になると考えています。

【図表3】投資行動別の積立投資者の割合

		2023年12月と2024年8月の積立額変化			小計
		増額	変化なし	減額	
2024年8月と 2024年9月 の積立額変化	増額	2%	2%	1%	5%
	変化なし	38%	34%	15%	87% ②
	減額	6% ④	1%	0%	8% ③
	小計	46% ①	38%	16%	100%

※表示桁数未満は四捨五入しています。

■ 相場下落時の投資行動別リターンのシミュレーション

- ✓ 相場下落時に積立停止・解約した場合が、最も収益面で低い結果になり、積立継続した場合は、収益額が一番大きな結果に

相場下落を受けた後の投資行動別に、「eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)」にてシミュレーションを実施したところ、収益額・収益率ともに最も低かったのは、「③停止および解約」した場合でした。相場下落時以降、基準価額は回復しており、慌てて売却してしまうと上昇局面のリターンを享受できず収益は低下しました。

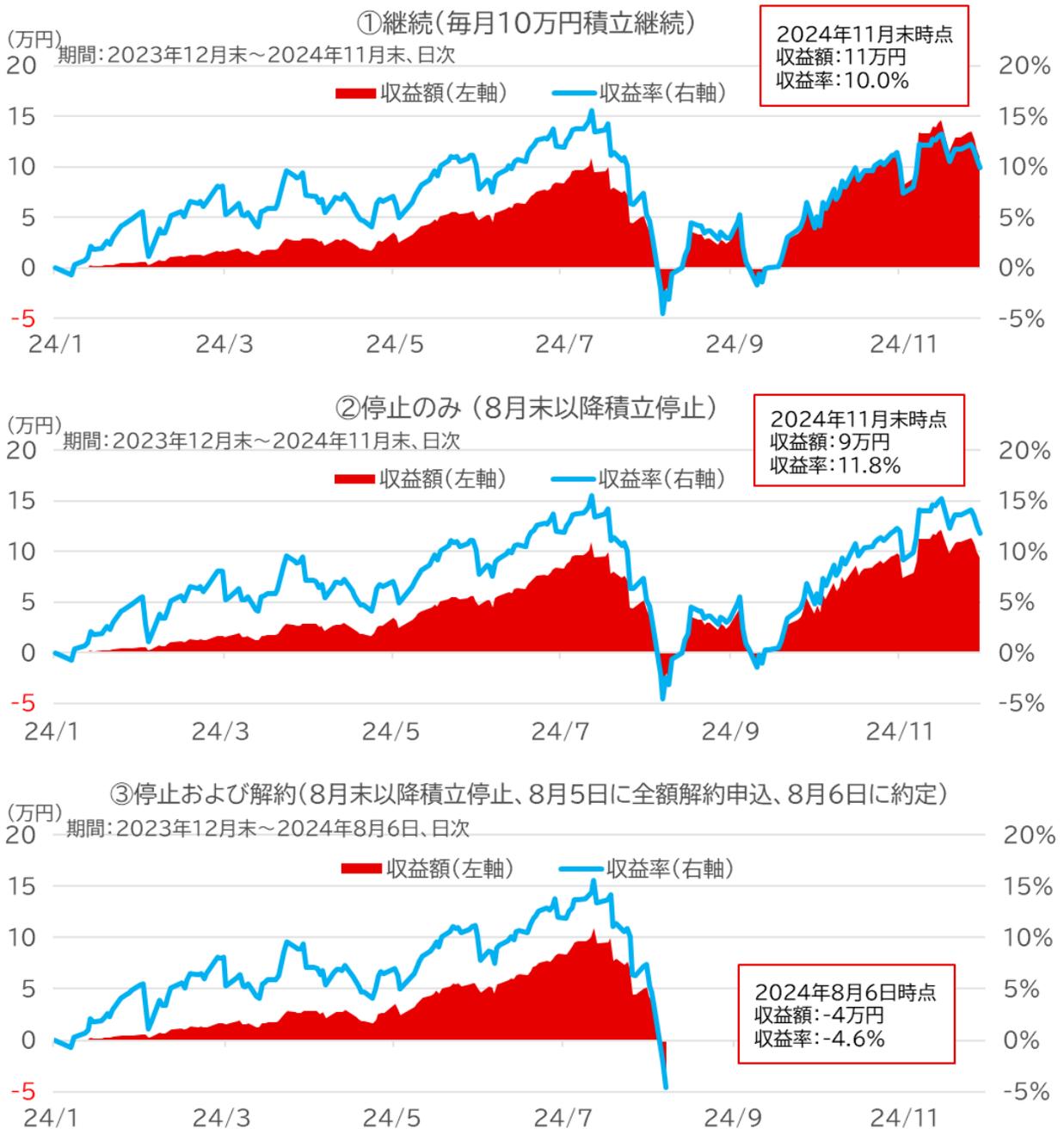
収益額でみると、最も高かったのは「①継続」した場合で、「11万円」でした。相場下落時以降、基準価額は上昇しており、8月末以降に積立を継続し増加した元本30万円分についてもプラスの収益率で運用できたためです。

(次ページに続く)

なお、収益率が最も高かったのは「②停止のみ」した場合でした。①と②を比較すると、相場下落時以降の購入価格が上昇し続けたため、「①継続」した場合は積立全体の平均購入単価が高くなり、収益率は「②停止のみ」に軍配が上がりました。

2024年の相場下落時には、慌てて積立停止や解約した場合は、その後の上昇局面のリターンを享受できず収益率が低くなり、当期間においては取るべき行動ではなかったと考えられます。また、収益率の観点で見ると積立停止することが最も良い結果でしたが、停止してしまうとこれ以上元本が増えないということが問題として考えられます。「長期的には基準価額は上昇する」と信じ長期・分散投資を行っていることや、停止した場合でもいずれ再開することを前提とするならば、相場下落には一喜一憂せず「継続」することがよいと考えられます。

【図表4】投資行動別リターンのシミュレーション



※上記はシミュレーションであり、実際の運用とは異なります。したがって、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

■ eMAXIS LINEに登録している方の相場下落時の投資行動

✓ 相場下落時の行動は「特に何もしなかった」方が約75%と一番多い結果

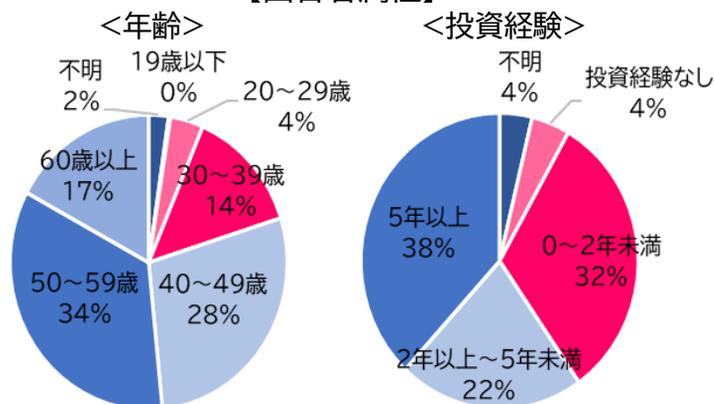
「eMAXIS LINE」でのアンケート結果で、相場下落時の投資行動で一番多かったのは、「特に何もしなかった」方で約75%を占めました。株式市場等の変動にも慌てず静観された方が最も多い結果となりました。下落したタイミングで「積立金額の増額」や「一括投資」をされた方も1割程度存在しました。また、自由記述の回答で多かった内容としては、「個別株の購入」や「分散を意識したファンドへの見直し」でした。

一方で、相場下落時に「積立金額の減額」や「休止」、「売却」された方の理由として一番多かったのは、「これ以上の損失を回避するため」で約43%でした。

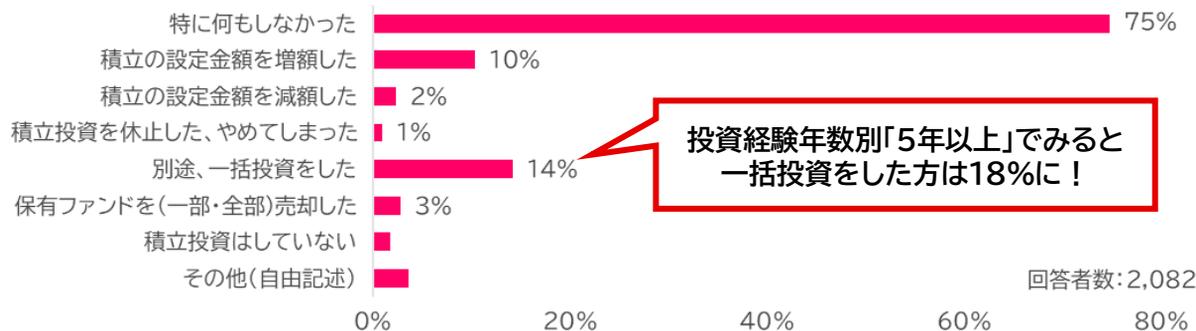
【調査概要】

- ① 調査内容
2024年8月の株式相場下落時の投資行動について
- ② 調査方法
LINEアンケートにて実施
- ③ 調査対象
「eMAXIS LINE」にご登録いただいている方のうち2,082名が回答
- ④ 調査期間
2024年10月22日～10月31日

【回答者属性】

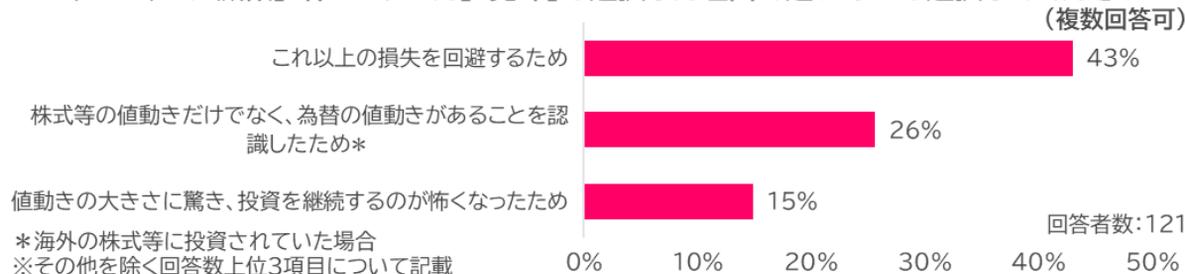


Q1. 今年8月以降に投資信託の積立金額の変更などしましたか？ (複数回答可)



投資経験年数別「5年以上」でみると一括投資をした方は18%に！

Q2. Q1で「減額」「休止・やめた」「売却」を選択した理由で近いものを選択してください (複数回答可)



※表示桁数未満は四捨五入しています。

当調査は回答者の属性等に偏りがあるため、必ずしも正確な結果とならない場合があります。一部の個人の意見・考えであり、必ずしも弊社の考えではないことにご留意ください。また、将来の運用成果を保証するものではありません。投資に関する決定はお客様ご自身のご判断と責任のもとに行っていただきますようお願いいたします。上記は参考情報の提供を目的としており、特定のファンドの購入、売却、保有を推奨するものではありません。

■ 弊社SNSのご紹介など

「eMAXIS LINE」では、eMAXIS関連情報を始めとして、様々な情報を発信しております。今回の相場下落時には、例えば下記のような情報を発信させていただきました。これからも皆さまの長期投資の一助となるような情報を随時発信していきますので、ぜひご登録いただけますと幸いです。



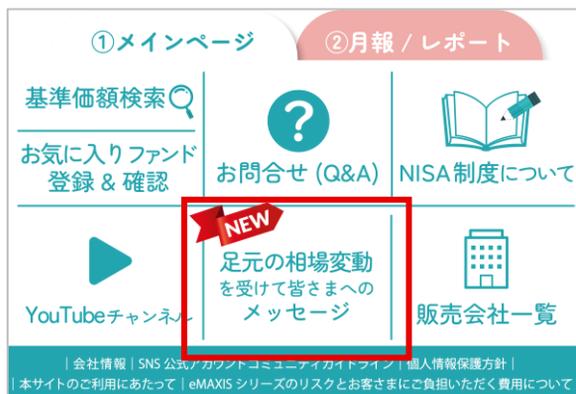
足元の相場の乱高下を受けて弊社常務取締役 代田より投資家の皆さまへのメッセージを掲載いたしました。NISAで投資を始めたものの、大きな相場変動により不安を感じている方は多いかもしれませんが、一緒に乗り越え、長期投資を継続していきましょう。

オルカン、S&P500に投資されているみなさま

2024年8月8日

相場の乱高下を乗り越えることで
投資家としての力量が高まる

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
常務取締役 マーケティング部門長
代田秀雄



※上記はeMAXIS LINEのリッチメニューのイメージです。



投資信託にはリスク(投資元本を割り込むおそれ)があり、購入にあたっては手数料等その他の費用がかかります。詳細につきましては、以下のリンク先をご確認ください。

- [投資信託のリスクとお客さまにご負担いただく費用について](#)
- 『eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)』の[リスク、費用](#)
- eMAXIS Slimについては[こちら](#)

【本資料に関する留意事項】

- 本資料は、投資啓蒙のために三菱UFJアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

販売会社は、下記の三菱UFJアセットマネジメントの照会先でご確認いただけます。

<ホームページアドレス>

<https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル>

0120-151034(受付時間/9:00~17:00(土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く))

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

東京都港区東新橋一丁目9番1号

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会